

# INTERVIEW

兵庫県豊岡健康福祉事務所 豊岡保健所  
一般社団法人ケアと暮らしの編集社 代表理事  
守本陽一先生



## 社会とのつながりを 処方する場所として

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

### 学生時代から地域で活動

山田隆司(聞き手) 今日守本陽一先生のお話を伺います。先生はまだ学生の頃から地域医療に興味を持ち、地域で活動されていたということ、当地域医療振興協会の中村正和先生から伺っていました。ですので今回は先生が卒業されて、実際に地域で活躍している姿をぜひ「月刊地域医学」の読者の皆さんに紹介したいと思い、兵庫県豊岡市の『だいかい文庫』を訪問しました。先生には昨年「月刊地域医学」の編集委員会にも参加していただいています。今日は先生の地域における活動や、今後目指していくところなどをお聞きしたいと思います。

まずはご経歴を簡単にお話いただけますか。

守本陽一 私は兵庫県北部の養父市の八鹿出身で、地元の公立高校から自治医科大学に進みました。41期生です。もちろん医療に関心はありましたが、もともと文系科目の方が関心が強く、地域社会とか社会の構造というものに関心があり、そのちょうど合流地点が地域医療なのかなと思います。

山田 先生は医療と地域に興味があって、自治医大を選ばれたということですか。

守本 自治医大はたまたま受かったからなのですが(笑)、医者になるということについては、外科や救急に何となく憧れがあったという感じですよ。医学部に行かなかったとしたら、多分社会

学や政治経済などの勉強をしたと思います。

自治医大のときに、いろいろな出会いがありました。いろいろな私のモヤモヤを聞いて、やりたいことを応援してくれる大人の皆さんがいらっしゃって、思いと医療との狭間の部分で、公衆衛生を学んだり、地域医療を実践されている先生を紹介していただいたりして、地域活動のようなものに少しずつチャレンジできたというところがあります。

**山田** 先生が学生時代に今のような地域活動を始めようと思ったきっかけは、どんなことだったのですか。

**守本** 自治医大の一般的な夏季実習は、地域医療実習といっても病院の中を見るが多かったので、低学年では何をやっているのかよく分からず、少し違和感があったのですね。でも救急系のICLSなどのシミュレーション教育には関心があり、インストラクター資格などを取得したのですが、そこには医学教育のエッセンスが詰め込まれていると思いました。それで自分で実習をしようと考えて、実際に地域を見てみることにしました。その時に協会の中村先生にお世話になったのですが、それを地元の養父市と豊岡市でやっているときに、自分は地元を全然知らないことに気づきました。地元って大した場所ではない、何もないと思っていたのが、地域診断というスキームを通して見たときに「こんなすごいところがあるんだ!」と思いました。すぐそこに映画館があるのですが、その映画館は1回潰れたのに、町みんなの力で復活したのですね。地域の中にそういう面白い人や頑張っている人が大勢いて、その中で医師という専門性を活かしている人もいるんだらうなと思い始めました。

また地域診断のときに手伝っていただいた東

京大学の孫大輔先生が、東大の近くの谷根千というエリアで、地域のいろいろなプレーヤーの方と一緒に地域活動をされていて、それがすごく面白かったのですね。地域だからできないことがたくさんあって、それをできるようにしていかなければいけない。もちろんそれも大事ではあるけれど、地域の人たちと一緒に何か新しいものを作ったり、ポジティブな活動をやっていくということも、一つの地域医療の形としてあるのだということも、孫先生の活動から知りました。「こういう形があるんだ」と思ったのがきっかけだったと思っています。

**山田** そういうことに学生時代に気付いたというのは素晴らしいですね。学生時代は高学年になればなるほど、覚えなければいけない臨床医学の勉強や、実習、試験などさまざまなハードルがあって、それを乗り越えていくだけで精いっぱいになってしまう人が多いですよ。自治医大はへき地医療や地域医療を担っている目的を持った大学なだけに、先生は本当に望ましい学生時代を過ごしたのではないかと思います。

**守本** そうですね。1年生の地域医療の授業にも名田庄診療所の中村伸一先生などがいらしてお話を聴いて感動はしたのですが、自分自身に現場感がないことに腑に落ちなさのようなものを感じたのですね。自分は机上で考えるより体験してみないと分からないたちなので。それで、医者や医学生という立場で2泊3日で関わるのではなく、この街で地域診断をやり、その後、小さな屋台をひいて街を歩きコーヒーやお茶をふるまいながら気軽に健康の話をするYATAI CAFE(モバイル屋台de健康カフェin豊岡)をやったり、いろいろやりました。そういう中で自分は医学生である前に一市民であり、一地域に暮らす人間であるということを知りました。